資料1-2

高校生ICTカンファレンス2024
最終報告会

2024年12月10日
高校生ICTカンファレンス2024代表

目次

サミット１班まとめ　・・・ページ３～7

サミット２班まとめ　・・・ページ８～１５

サミット３班まとめ　・・・ページ１６～１９

私たちの提言　・・・ページ２０～２４

感想と今後　・・・ページ２５～２８

サミット１班まとめ

自己紹介

名前　原 香桃美

年齢　17歳（高2）

学校　神奈川大学附属高等学校

特技　犬の鳴き声　ダンス

1班のまとめ

AIに関する法律の制定

1.使用ライセンスを導入
2.罰則を制定

教育現場での生成系AIの活用を促進

1.生成系AIの学習を義務化
2.学生用AIを作成

生成系AIに関する法律の制定

1.生成系AIの使用ライセンスを導入

使用者 ▶ 学習 ▶ 資格に合格 / ライセンス取得 ▶ ▶

責任の持てる使用者を養成
法律が守られているかを監視

2.罰則の制定：一定期間の使用制限・禁止、程度に応じた罰金

教育現場での生成系AIの活用を促進

1.AI学習の義務化

→小中学校「道徳」

→高校の「情報Ⅰ」で生成AIという新たな単元を追加

2.学生用AIを作成

→学習を補助・学習計画作成で活用

サミット２班まとめ

自己紹介

名前　柴田優

年齢　17歳（高2）

学校　長野県松本県ヶ丘高等学校

部活　ソフトテニス・音楽（合唱）

今、高校生が考える生成AIとの付き合い方　ー「誤情報・偽情報」を超えた活用法を考えるー

開催地：サミット　グループ：　２班　2024.11.03

偽情報・誤情報に対抗するために

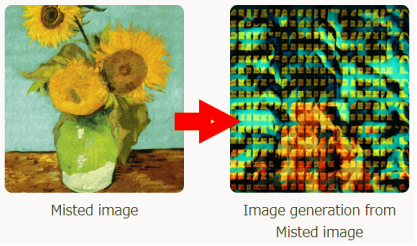
1.画像生成AI悪用の予防

提言①

AIが作ったものにマークを付ける法律を制定

1.画像生成AI悪用の予防

電子透かし



存在はするが統一・普及していない

AIが生成したものにマークを付ける　制度化

↓

一目でAIによる成果物かどうか判断できる

2.誤情報、偽情報への対処

提言②

アプリ上のシステムに偽・誤情報を検出するファクトチェックを導入

2.誤情報、偽情報への対処

提言③

フェイクニュース紹介コーナーを設立

フェイクニュースの紹介

SNS・特設サイト・ニュース番組に
「**今週のフェイクニュース**」コーナー作る

- 偽情報の拡散を止める
- 生成AI悪用のパターンを理解
- 偽情報・誤情報が流れているという意識が生まれる

サミット３班まとめ

自己紹介

名前　林　優太朗

年齢　17歳

在学校　神奈川県立平塚江南高校

部活動

テニス部・囲碁将棋部

提言

新教育プログラムの設立

生成AIに関する法律を作る

３班のまとめ

1新教育プログラムの設立

情報と向き合い続ける力が必要

→対論する授業やクロスチェックなどの

　事実確認するクセをつけさせる。

2生成AIに関する法律の制定

→法を制定し無秩序な今のAIの扱いから脱出

私たちからの提言

提言① 新教育プログラム

生成AIの誤情報・偽情報を防ぐためには新たな教育が必要！

→「情報と向き合い続ける力・粘り強く向き合う力」

・なぜ今誤情報・偽情報が絶えないのか

目の前の情報について深く考える習慣がない（直観的判断）

「モラル」の部分が関係している

SNSに関しての罰則等が明確ではない（無秩序）

新教育プログラム

新教育プログラムの学校での具体案・・・

1.小学校「道徳」

年間2h×6年間＝12h

例）
・生成系AIの著作権・個人情報・偽誤情報などについて
・ディスカッション

2.中学校「技術」

年間4h×3年間＝12h

例）2時間分：座学
・生成系AIの基礎
・倫理的な問題
・AIの使い方と責任
・生成系AIの未来と社会での役割

3.高校「情報Ⅰ」

年間4h×1年間=4h

例）2時間分：実技
生成系AIを用いて
・文章作成
・画像生成
・問題解決や分析
・創作活動

提言② 生成系に関連する法律の制定

1. AIマークの導入

AIが生成したものにマークをつけ、偽情報・誤情報の拡散を防止

1. 生成系AIリテラシー向上法

政府や地方自治体が独自に生成系AIの理解を深めるような
プログラム作成を推進する法

例）「オンライン生成系AI教育プラットフォーム」
企業が自社社員に生成系AIに関する研修やワークショップを実施

提言のまとめ

提言①　新教育プログラムの設立

提言②　生成系AIに関連する法律の制定

感想と今後

感想と今後　原

〈ICTカンファレンスを通して〉

全国から集まった同年代の高校生たちと、
身近な話題になりつつある生成系AIについての
ユニークな意見が聞け、視野を広めることができた

〈今後〉

これからいただくご意見やご質問の内容を活かして
生成系AIの将来についてもっと探究し、突き詰めていきたい

感想と今後　林

＜ICTカンファレンスを通して＞

生成AIというものについて学校のゼミを
通して考えて行く中で、この活動に参加しました
この活動を通して様々な人との意見交換ができ
ゼミでの最終発表をより濃いものとすることができました

＜今後＞

ゼミの最終発表に向けてしっかりと準備していきたい

感想と今後　柴田

＜ICTカンファレンスを通して＞

生成AIというものに興味を持てた。

自分とは違う意見を受け入れ、批評もしながら話し合うことが出来るようになった。

とてもいい経験だと思う。

＜今後＞

他の高校生や大人の方から得た意見とともに生成AIを使用していきたい。

ご清聴ありがとうございました